

子どもしんぶん

さん太タイムズ

2021年(令和3年)

3月14日(日)

毎週日曜発行!

発行所

山陽新聞社

岡山市北区柳町2-1-1

恐竜が走る

恐竜の姿

全身骨格レプリカ

岡山理科大学生が制作



「恐竜調査隊が行く」連載 石垣忍教授研究室

岡山理科大学(岡山市北区理大町)の生物地球学部4年木村朝陽さん(22)＝写真左、佐野佑さん(22)＝同左＝が、卒業制作として恐竜の全身骨格レプリカ2体を完成させました。2人はさん太タイムズに「恐竜調査隊が行く」を連載する石垣忍・同大教授(66)＝同中＝の研究室の学生に力を入れました。化石の色の再現に力を入れました。(文・中川結、写真・中村映一郎)＝2面につづく

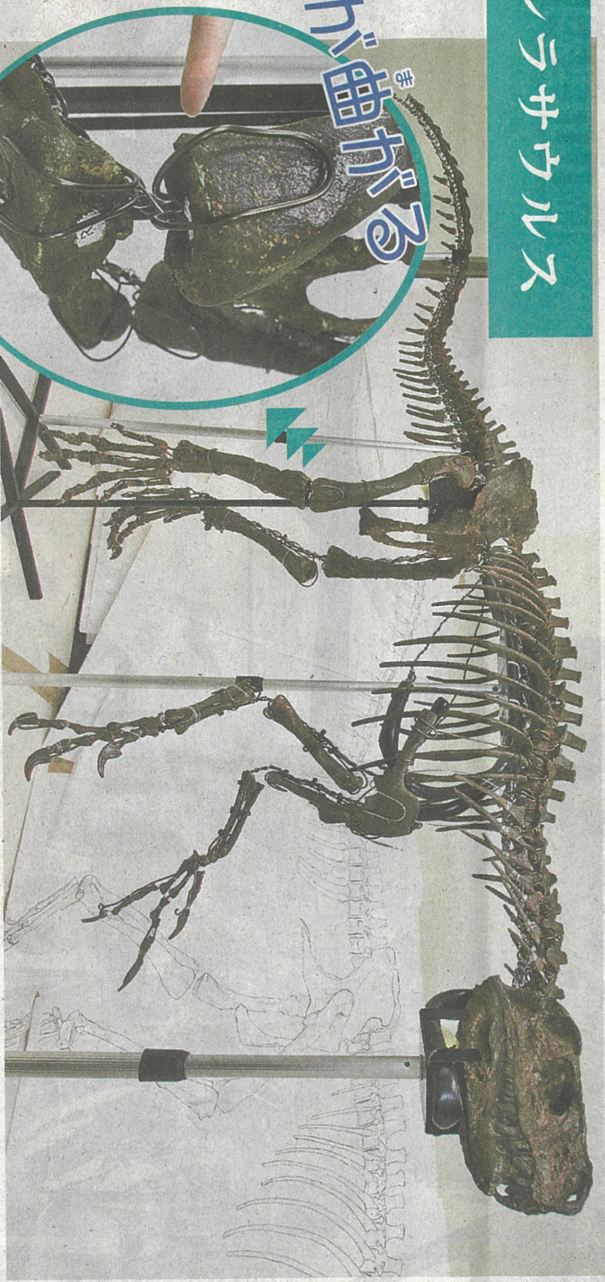
姿勢自在、迫力の動き再現

岡山理科大生制作

恐竜全身骨格レプリカ

岡山理科大の4年生2人は、全身骨格レプリカを約1年かけて完成させました。佐野佑さんは三足歩行に進化したばかりの初期の肉食恐竜レプリカ村朝さんは鳥類に近い特徴を持つトロマエオサウルス(同・3歳)、同制作にあたり2人は、生き生きとした迫力ある展示ができ、動き方の研究にも役立つよう、自由自在に姿勢を變えられる仕組みを考案しました。一般的なか骨格標本は鉄の棒を骨に通して固定します。今回の標本は2体ともワイヤをらせん状に束ねて骨に沿わせる構造とし、柔軟性と強度を両立させました。貸し出し展示などの持ち運びに配慮し、パーツをクイックに取り外し、簡単に分解できるようにしています。本物の化石に近い色にするのも重視しました。骨のパーツは樹脂製で乳白色なので着色が必要です。海外の論文や同じ時代の地層で見つかった化石などを参考に、さまざまな色の絵の具を薄めずに塗る手法も使いながら、層層して複雑な色合いを再現しました。

骨格レプリカの体は、関節の部分など改良を加えて、20日から岡山理科大の恐竜学博物館(岡山市北区理大町)で展示する予定です。「本物の化石を見た時のような興奮を感じ、生きていた時の動きを想像してほしいです」と2人は話しています。



ヘレラサウルス

初期の肉食恐竜



佐野佑さん

「本足での走り方も研究できます」

関節が曲がる



鳥類に近い恐竜 トロマエオサウルス



木村朝陽さん

「7層塗り! 化石らしさ感じてほしい」



門嶋陸さん

「陸の王者」 プレスタサクス



卒業制作で復元画に取り組んだ学生もいます。生物地球学部4年門嶋陸さん(22)は恐竜の大繁栄より前に「陸の王者」だった爬虫類・プレスタサクスを描きました。門嶋さんは「復元画は論文など研究成果を基に描かれます。姿勢や色を決めた科学的理由に注目してほしいです」と言います。プレスタサクスの骨格標本や分類的に近いワニの解剖の論文などを参考に、筋肉の付き方や歩き方を研究しました。周囲の植物や土の色も論文や専門家の助言から再現し、そこで姿を隠しやすいような体色に決めました。

復元画は4月3日から5月5日まで、なぎピカリアミュージアム(岡山県奈義町)にプレスタサクスの全身骨格レプリカとともに展示されます。

訂正

その日付本面の「真日本大震災10周年」の記事の見出し「道路や鉄道復旧進む」で「道路」の振り仮名に「ちうろ」とあるのは誤りで、正しくは「どうろ」でした。